

アジサイ 紫陽花の咲く頃に。

梅雨入りの声と共に聞こえてくるアジサイの花
便り。4千株のアジサイが植えられ、あじさい
寺として知られる平等寺は、この季節になると
たくさんの方が訪れる。21年目を迎えたという
09年、アジサイに込められた思いに触れ、地域
の魅力を高める『花』の可能性を考えた。



写真右_本堂前に咲くヤマアジサイ。品種が多く、花の色・形・大きさなどさまざまな表情を見せてくれる。めずらしい品種もあり1時間以上ヤマアジサイを観賞する愛好家もいるという。写真中_裏山の参道は斜面全体にセイヨウアジサイやガクアジサイが植えられ、十三仏へと案内する。写真左_「七変化」とも呼ばれるアジサイは色の移り変わりも見どころの一つ。咲き始めは白色で徐々に色が移り変わる。

アジサイの誘い

寺分地内、珠洲道路から50分ほど入ったところに『あじさい寺』と呼ばれる平等寺がある。駐車場を迎えてくれるのは、県指定天然記念物の巨大なコウヤマキだ。その大きさに圧倒されながら本堂へ続く坂道を歩く。両脇にアジサイが植えられた坂道は、急な階段の『男坂』と緩やかな坂道の『女坂』。赤紫から青紫まで、多彩に色づいたアジサイが境内を案内する。

ヤマアジサイで特色を

一般的に植えられている球状のアジサイはセイヨウアジサイという品種で、日本産産のガクアジサイが改良されたもの。ほかにも山林に自生し、花色や花形が多様なヤマアジサイや豪雪地帯に分布するエゾアジサイなどの品種がある。中心の小さな粒状のものが花で、花びらに見えるものは萼である。

全国には平等寺と同じように『あじさい寺』と呼ばれる寺院やアジサイの名所となっている

公園がたくさんある。そのほとんどがセイヨウアジサイを中心としているが、平等寺は多種多彩なヤマアジサイの充実を特色としている。

人を引きつける花の魅力

6月中旬から、本堂の前庭に並べられたヤマアジサイがいろいろな花を咲かせる。その品種の数は80種類以上。平等寺住職の上野弘道さん(68)が長年かけて全国から集めたものだ。

裏山へと続く参道には、不動明王や薬師如来など親しみのあたる十三仏の像が並び、主にセイヨウアジサイとガクアジサイが山一面に植えられている。

上野さんによると、アジサイが咲く1カ月間に平等寺を訪れる人は、多いときで5千人。能登半島地震後は激減して3千人ほどで推移しているという。

「みんなで知恵を出し合えば、能登に観光客は戻ってこない」。大地震が観光に与える影響を肌で感じた上野さんは、『花』を生かした次のステップに踏み出している。(次ページにインタビュー)



高野山真言宗
和住山平等寺

【所在地】石川県鳳珠郡
能登町字寺分 2-116
☎ 0768-76-1311



Photo : ガクアジサイ

花に親しみ、心癒す『花の寺』を夢見て

あじさい寺(平等寺)住職

上野弘道さん

うえの・こうどう(68)=寺分=

神社仏閣を生かして

「行政中心の村おこしには限度がある。神社仏閣を生かした村おこしができないか」昭和61年、社会教育主事として柳田村教育委員会に勤務していた平等寺住職の上野弘道さんは、竹内虎治柳田村長(当時)からこう強く切望された。「たくさんの人にお参りしてもらえるようにお寺を地域に開放したい」と考えていた上野さんは翌62年、岩倉寺(輪島市町野町)の本尊開扉法要にたくさ

んの人が参拝する姿を目の当たりにし感動したという。そして、かねてから構想していたあじさい寺の実現を決意した。アジサイを選んだ理由について上野さんは「一つは日本古来の花であり、開花時期が長く病害虫にも強いこと。もう一つは鎌倉、奈良、京都にもあじさい寺と呼ばれる寺があり、たくさんの人がお参りしていること」の二つをあげる。

十三仏とあじさい寺が実現

63年秋から平成元年にかけて、裏山と境内にアジサイ4千株を植樹し「花と一緒に仏様にも親しんでもらいたい」と裏山に十三仏をまつた。

さらにあじさい寺としての特色を出すために、セイヨウアジ

サイ中心ではなく、日本各地に自生し150種近くあるヤマアジサイの充実に力を入れた。上野さんの構想に多くの寄付も集まった。「檀家の皆さんや地域のするなど約千人から寄付が寄せられた。たくさんの人のおかげで実現することができ、本当に感謝している」。

維持管理の苦労と苦悩

除草、水やり、剪定のほか、消毒や雪害対策まで、4千株というアジサイの維持管理は想像以上に大変だ。「最初の10年間は檀家の皆さんに除草してもらったり、五郎左工門分の中村

してきた18年、上野さんは平等寺の看板に『能登花の寺』を掲げた。

春にサクラ、初夏にアジサイ、お盆の時期にサルスベリが咲き誇る『花の寺』の構想は、上野さんが10年以上前から夢見てきたことでもあった。

しかし19年3月25日、能登半島地震が発生し、これまで毎年4千から5千人が訪れていた観光客が3千人へと激減。上野さんは「能登に人が来なくなった」と実感したという。

花の寺をネットワークに

「一つの寺だけが頑張っても限界がある」。上野さんは奥能登にもう一度観光客を呼び戻すため、奥能登の寺院が共存共栄するために『能登花の寺』をネットワークとして新しい人の動きを作りたいと考えている。

「これからは社会に貢献し、地域に必要とされる寺院。時代のニーズにあった寺院でなければならぬ。そのために自分ができることを精いっぱい成し遂げたい」。この春、上野さんの新たな夢が一つの形になった。

あじさい寺から花の寺へ

「アジサイの時期だけではなく、一年を通して花に親しんでもらいたい」と平成10年に境内に植えたサクラやサルスベリなどが成長し、周りの自然と調和

